

砕土率 70%確保が苗立ち向上の必須条件

- 4月は例年より気温は低く、また降水量も多くほ場の乾燥が遅れています。速やかに明渠や排水溝を作り排水対策を徹底しましょう。
- ほ場水分が高いまま荒耕起すると、砕土率が低下します。ほ場が乾くのを待ってから作業を実施しましょう。

1 耕うん・砕土 ～ 目標は砕土率（2 cm 以下の土塊比率）70%以上 ～

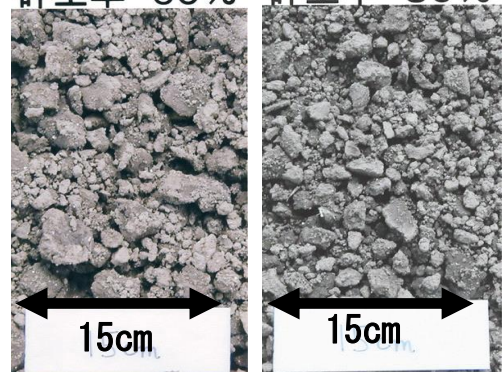
里のほほえみのは種開始は6月からです。今月は排水対策を徹底し、荒耕起は実施せず、ほ場が乾くまで耕うんは待ちましょう。

- 土が乾いたときに1回の耕うんで作業を完了する。
- 作業速度はいつもより遅くし、耕うんピッチは小さくする（天候が悪い時ほど丁寧に）。
- アップカッターロータリーを使用する。（細かい土が表層に多くなる。）

表 は種に適した土壌状態の判断

土壌水分	手でにぎった時の状態	は種の可否
高 ⇕	水が垂れる・にじむ	不可
	団子になる	難
	団子になるが崩れる	良
低	形が崩れない・固まらない	難

砕土率 60% 砕土率 80%



2 は種

- 紫斑病予防のため、塗沫または湿粉衣による種子消毒を必ず実施する。
- アブラムシ類は、褐斑粒の原因となるウィルス病の原因となるので、種子塗沫または予防剤により必ず防除を実施する。
- は種の深さは表面から3～4 cm程度とする。なお、土壌水分が多い場合はやや浅め、土壌が乾燥気味の場合はやや深めにし、十分鎮圧する。
- 畝の高さは10cmを目安とし（畝が高いと培土時の土量が不足するため）、は種後は畝間の溝を明渠につなぐ。

表 は種量の目安

品 種	は種時期	目標苗立数 (本/m ²)	は種密度の目安		10a 当たり 種子量目安
			うね幅	株間 (2粒播き)	
里のほほえみ	6月1日～ 6月15日	13	75cm	16cm	6kg
エンレイ	5月25日～ 6月10日	9～10	75cm	21～23cm	3.5～4kg
	6月11日～ 6月20日	13～18	75cm	12～16cm	5～6kg

3 雑草対策

- 除草剤は、は種後なるべく早い時期で土壌が湿っている状態で散布する。
- 乳剤の場合は、土壌が過湿状態でない限り、使用基準の範囲内で希釈水量を多くし、十分な量を散布する。
- **帰化アサガオ類は体系防除※**で発生防止に努める。

【※体系防除の例】

複数回の除草剤使用と中耕培土を組合せる。大豆の草高が条間の幅と同じになるまで2週間ごとに防除を実施する。また、必要に応じて手取り除草を行う。

- 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容、使用方法・注意事項等を確認し、農薬使用者が責任をもって使用すること。
- 農薬散布時は、周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意すること。
- 農薬使用後は、防除歴を整理し、記録・保管すること。

問合せ先：上越農業普及指導センター普及課作物担当 TEL 025(526)9406